



# 関西いのちの電話



「タリン(エストニア)の旧市街地」撮影：牧口 望



## いのちの尊さを噛みしめて

みつわ保険サービス株式会社 代表取締役会長  
関西いのちの電話評議員 牧 口 望

細谷亮太さんは、元聖路加国際病院副院長。専門は小児のターミナルケア。「生きるということ」と題した講演会は涙なしには聞くことができませんでした。

心臓疾患を持って生まれてきた女の子。8歳の時、ドイツに行って心臓移植を受けます。その後、何度かの手術に耐えます。気管切開しているので、話すことができません。筆談か携帯です。18歳で腎臓も悪くなり人工透析が必要になります。でも、この子は拒否します。「もう十分頑張った」って…「最後は家族と過ごしたい」って…。浮腫がひどくなってきて、父親は娘に頼みます。「透析しよう。医学は日進月歩だ。必ず道は拓ける。」それでも彼女は透析を受けません。「もう十分生きた」って…。

「懸命に生きる人間のいのちには、長いとか短いということとは関係のないそれぞれの輝きがあります」細谷さんの言葉です。細谷さんは、200人の子どもの死を通して、彼らから生きる意味を教えてもらったと話されました。

人は、必ず、死にます。100歳まで生きても、長い歴史からは点でしかありません。しかし、死んで全てが終わりではありません。人は死んでも生きるのです。

難病で子どもを失った親、兄弟の中で、死んだ子どもは生き続けます。生きた期間と関係なく「生きたことの意味」はあります。

「自分が死ぬ」ことを意識すれば、自由になれます。あらゆる種類のプライド、屈辱や挫折に対する恐怖は消えてしまいます。生かされていることへの感謝の気持ちだけが残ります。“いのち”が天から与えられたものだからです。与えられたものは大切に扱わなければなりません。いずれやってくる返還時期まで、大切にしないといけないです。

私の長男家族に、障がい児がやってきました。18トリソミーという病名の孫が無事生まれてきました。平均寿命は、男児2～3ヶ月。女児10ヶ月。しかし、孫は頑張っています。この3月で4歳。這うことも歩くこともできません。自分の口から食べることもできません。気管切開もしています。呼吸器に繋がれたまま。自分で寝返りすることもできません。でも、親があやすと笑うのです。この孫も、間違いなく、彼にしか成し得ない「使命」を持って生まれてきたのです。

「生きるんだよ。どんな時代になろうとも、生きなさい」孫を通じて神さまの声が聞こえます。

関西いのちの電話 相談電話（24時間365日）☎06-6309-1121

自殺予防いのちの電話 每月10日 午前8:00～ 翌午前8:00 ☎0120-783-556

## 関西いのちの電話 第35回公開講座 NHK歳末たすけあい配分金による事業

# 今、生きているあなた

～そのかけがえのなさ～

日 時：2017年2月18日(土)  
場 所：大阪YMCA会館 2Fホール

講師 柳田邦男 氏  
ノンフィクション作家

参加人数：約370人

柳田氏は81歳。今回「自分の人生・いのちをどう見つめ生きて来たか」を、ご自身の人生を振り返りながらお話しくださいました。

## ●柳田氏の講演概要



私が30歳代半ば頃、妻が精神を病み長期のケア、50過ぎには、長男がウイルス脳炎によりてんかん症になり、続いて次男が心を病み精神科に入院と試練が続いた。そんな折、機会あって、臨床心理学者の河合隼雄先生に「息子の担当医から内観を受けるように言われているのですが、どういう意味があるのでしょうか」と尋ねると、ぽつりと一言「意味があるかどうかは、私には分かりません。しかし、心を空白にして、純白な素直な気持ちになって、自分の内面を探ると、何か大事な気づきがあるのかもしれませんね」と話され、啓示を受けたような気持ちになった。そして集中内観を受け（当時52歳）、これが人生の転機ともいえる、新しい人生観への気づきに繋がった。



著書にサインをする柳田氏

人がどんな生き方をしたかということは、その人が亡くなった後も、残された連れ合い、あるいは、息子・娘がその人のことを思い返し、そして彼らが生きる上に少しでも役に立つものを残し得たか、とても大事な意味を持ち、後を生きる人の人生を膨らますことさえできる。これを私は死後生と呼んでいるが、死後生を考えた時に、今どう生きるべきかが見えてくる。

最近、私はフランスの哲学者パスカルの「永遠の虚無が私を恐れさせる」という言葉に出くわし、一瞬固まり、身動きできないほどの石の塊を背負った思いになりました。そして今回、死後生の話をお聞きしたのですが、まだまだ死後生（精神性のいのち）を死後存在させるためには、今までの人生において成し得たことがあまりにも小さいゆえに、今後どのように人生の最終章を生きたらいいのか、正直途方に暮れています。もしほんの限られた家族に死後生を残せるとしても、死後の世界を、今生きて

る時に確かなものとして認識できない限り、死の恐怖はどうにもなりません。この柳田氏の家族の境遇、精神科医や河合隼雄氏からの相手の人間を見据えたメッセージ、それを受け取る柳田氏の感性、これらは私の人生では起こり得ないですが、今の私にとっては、教えていただいた死後生をよりどころにして生きるしかないと考えています。いずれにせよ、このように考える機会を与えてくださった柳田氏に感謝したいと思います。皆さんはどう考えられますか。（広報委員会 K.O.）

## エルダーものがたり V ~大学時代の思い出~



18歳：ヘンドリックス大学4年生

私はずっと、人の前で頭を上げてしっかり話せなかつた。短大のスピーチの先生は私のことを課題にして、厳しいことを色々やつたが、最後にEdgar Allan Poeの短編小説「Tell-tale Heart（密告した心臓）」をクラスの前で暗唱することを命じた。大変だ！「気が狂っている男は、共に暮らしていた年寄を殺したことを、時にこっそり、時に自慢げに話す。事件を調べに来た警察官を納得させて、もう安心だと思ったら、バラバラにした死体を隠した床の下から心臓の音が聞こえてくる。段々大きくなるが、皆、聞こえないふりをしている。警察官がバカにしていると思って、飛び上がって、大きく怒鳴る。『そこ！そこにいる！あの忌まわしい心臓だ！！』と告白してしまう。」話し終わったら皆一瞬の沈黙。そして大きな拍手。一人の学生は、「お前は本当は狂ってるんじゃないのか？」と言って、皆笑った。そして、また大きな拍手をしてくれた。「やった！」と解放感が私の体中に流れた。“先生、ありがとう”と思った。

九月に、16歳で、希望していた大学の2年生として編入した。家を出て、寮に入り、ここで自分を変えようと思った。私は、皆がやるように今まで、可愛い女性をコーラを飲む溜り場とか、映画とかに誘ったりしたことにはなかった。映画館ではDisneyの映画をやっていた。そこで、早速相手を決めて、女子寮に電話をした。クラスは一緒だと自己紹介して、「土曜日映画に行きませんか」と聞いたら、「ごめん、先日ルームメイトと行ったばかりです」（町に映画館は一つしかなかった）次の言葉に自分は驚いた。「面白かったか？」向こうは、「はい」。「じゃ、又見に行く気はないか？」ちょっとの沈黙があつて、「はい、又行きた

高校3年と大学1年を同時にやつた。國の方針で11年目にあたる高2をいい成績で終えたら、大学適合試験を受けられて、合格したら大学に入り、二つの学期の単位が高校卒業の単位と認められた。私は地元の短大に入り、春学期と夏学期をやつたので、八月に高校を卒業して、九月に狙っていた大学に編入したかった。

短大の勉強では、ひとつだけ大きな経験ができた。

い」。電話を切つたら、私の周りで様子を覗いていた仲間はその大胆さに声を上げた。私もそう思ったが、一つの大きなハードルを越えた気がした。

生活費が足りなかつたので、初めのアルバイトは学校食堂で働いた。3年目、（私は4年生で）学部長の学生秘書のアルバイトに就いた。部長の部屋と隣合わせの鍵の掛かる小さい部屋を持っていた。部長に言われた雑用をしたが、一番大事な仕事は学生の出席状況を記録することだった。正当な理由なしの欠席をオーバーしたら、単位は減らされる。毎回、授業の報告を貰って、学生が持つて来た欠席理由が正当かどうかを判断して、記録を作つた。作業は先生にも学生にも信頼されている感じがして、やり甲斐があった。

4年目に希望する科目を申し込んだら、教務主任に呼ばれて、「あなたは1年生の必修の“社会”的科目を取っていない。何かを止めて、取らないと卒業出来ない」と言われた。2年生で編入したと反論しても通らない。このままでは19歳で卒業することになる。私はそのころやつと、大学の勉強が理解できた実感がしていた。予定している科目を全部取りたい。都合よく、約束の奨学金はもう一年分ある。私は決断した。あえて卒業しない。だから残つて、その1年生の科目、プラス取りたいもの全てを取ることにした。新学期になつて、「お前は卒業したと思った」と言う人に、「もう一年僕を我慢しなければね」と笑いながら返事した。学部長は「又、君にして貰える」と言って喜んで下さつた。私は更に、二年間その秘書の仕事を続けた。

充実した二回目の「4年生」を終えて1947年に晴れて卒業した。

### ウィリアム・エルダー (William Elder)

1926年生まれ。1948年宣教師としてアメリカから来日、以来68年間日本在住。1973年東京英語いのちの電話(TELL)設立時の研修に関わり、1980年に関西いのちの電話の研修担当として相談員の育成に尽力し、現在もグループリーダー、スーパーバイザー、養成講座講師など関西いのちの電話の重鎮である。指導における温かい視点、そのわかりやすさには定評があるが、何より人間性の豊かさ、懐の深さに感銘を受けることが多い。大阪女学院短期大学名誉教授。



2016年11月「バザー」にて

## あたたかいご支援ありがとうございます

2016年11月1日～2017年2月28日までに、次の方々から社会福祉法人関西いのちの電話への寄付またはバザーなどへのご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

(五十音順・敬称略)

### 【個人】

浅野 敏行	宇野 徹	岸本 彰五	笑福亭松枝	道免 逸子	新田 精一	宗像千代子
東 良三	大久保萬里子	北之坊皓司	白方 誠弥	所 公子	バイマー・ヤンジン	宗行孝之介
荒木 寛子	大塚 昭男	吳 美憲	菅谷 道子	中井 雅美	林 幸	森田 和典
家田 莊子	大塚 伸二	小林 文子	杉浦眞喜子	中嶋 末子	日野 哲雄	山内 通生
石田 忠範	大津 久直	小林 昌則	杉山 邦子	中谷 治	廣野 智子	山口 健一
石原 紘	大畑 了子	小村 典子	隅田 保	永富 美加	藤田 淑雄	山崎 好子
伊東 俊	小頭 誠	酒井 俊一	高尾 有	中野 穂夫	藤原 正巳	山田 孝彦
伊藤 誠一	小川 弘二	佐治美知子	竹村 武男	中野 桂子	古坂 啓子	山本 雅司
今村 一之	片山 巖	左藤 章	竜田美枝子	長野 泰信	真島 理美	渡部 正勝
今村 喜雄	加藤 昌子	柴峰 隆士	田中 豊子	長野加代子	松野 五郎	匿名 2名
入江たかよ	金岡 重雄	島田 榮一	谷口善志郎	西村 和子	真野 和子	
入江 保夫	神谷 尚孝	島田 恒	坪内 憲治	錦織 一郎	三浦 直之	

### 【団体】

愛徳カルメル修道会 本部修道院	合資会社 寿屋	日本キリスト教会 西宮中央教会	日本基督教婦人矯風会大阪支部
援助マリア修道会(西宮)	コニシ株式会社	日本基督教団 阿倍野教会	日本聖公会 大阪教区婦人会
援助マリア修道会(福山)	在日大韓基督教会京都教会向上社保育園	日本基督教団 池田五月山教会	日本ナザレン教団 大阪桃谷教会
大阪信愛修道院	聖バルナバ病院(サマリヤ会)	日本基督教団 石橋教会 婦人会	日本バプテスト宣教団 池田キリスト教会
大阪聖愛教会	聖母奉献修道会	日本基督教団 大阪教会	日本バプテスト教会 北豊中教会
大阪ひごばし法律事務所	富田林聖アグネス教会	日本基督教団 大阪東十三教会	能勢ライオンズクラブ
大阪YMCAサンホーム	ナンバカギモとメンタルクリニック	日本基督教団 香里教会	姫路聖マリア病院
大阪YWCA	日本イエスキリスト教団垂水教会	日本基督教団 聖峰教会	平井保育所 職員有志
大阪帝塚山ライオンズクラブ	日本カトリック教会 玉造教会	日本基督教団 塚口教会	融通念佛宗 法藏寺
幼きイエス修道会	日本カトリック教会 枚方教会	日本基督教団 天満教会	正岡クリニック
小林聖心女子学院 中高奉仕部	日本基督教団 大阪教会 婦人会	日本基督教団 豊中教会	(株)マツヤ
カトリック鈴蘭台教会	日本キリスト教会 池田教会	日本基督教団 東梅田教会	レデンブリスチーン修道院
関西学院 宗教活動委員会	日本キリスト教会 大阪北教会	日本基督教団 武庫之荘教会	渡辺クリニック

◎他に相談員75名と、理事、評議員が支えています。

### 募金をお願いします

24時間・365日「眠らぬダイヤル」として相談活動をおこなっています。皆さまのご支援が、電話をつなぎ「いのち」をつなげます。いのちの電話の活動を支えてください。

お振込先 ※社会福祉法人へのご寄付は税制上優遇されます。

口座名義：社会福祉法人関西いのちの電話

口座番号：ゆうちょ銀行 00990-3-68480

：三井住友銀行 十三支店(普) 998829

### 2016年度歳末募金のご報告とお礼

関西いのちの電話事業のために、ご支援・援助を賜りありがとうございます。

さて、昨年12月より、歳末募金を皆さんにお願いしましたところ、個人(80件) 674,576円、団体(42件) 548,762円、総額(122件) 1,223,338円の募金をいただきました。  
(3月5日現在)

ここに、結果をご報告し、ご協力いただきました皆さんにお礼申し上げる次第です。どうぞ今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。  
(財務委員会)



## 51期相談員認定式・永年感謝式、おめでとうございます

日が陰ればまだ冬のなごりを感じる3月11日、51期認定式・永年感謝式が行われました。

新しく相談員に仲間入りした51期14名に認定証が、活動10年の方16名、20年の方12名、30年の方1名に感謝状が贈られました。相談員となった51期生の身の引き締まるようなスピーチに、長年活動をしてきた相談員たちも、心新たに活動の継続を誓いました。また、活動20年の31期生は、ボランティア元年といわれた阪神淡路大震災の年に養成講座を受講した人たちです。奇しくも東日本大震災の日に20年永年感謝式を迎え、震災がきっかけであったこと、家族や支えてくれた方への感謝など感慨深い思いを述べました。活動10年の42期生は運営の面で活躍している人も多く、さらなる貢献が期待されています。

祝賀パーティは50期生が心を込めて準備し、KAINO劇団の朗読劇、50期生による「世界に一つだけの花」「乾杯」の合唱が披露され、華やかで心温まる会となりました。

### つながりを求めて

30年前私は、心のよりどころであった父を亡くし、仕事にもいきづまり、ひとり孤独だった。

自分や人とのつきあいに疲れ、人間以外の絶対者の存在を求めカトリックの洗礼を受けた。しかし孤立感は変わらなかつた。そんな時、新聞の相談員募集の広告が、私の目にとびこんできた。わずか数行の簡単な広告だったが、その時の私の何かに呼びかけ、歩を進めるためにためらいはなかった。そしてそれが「人とつながる」ことへの第一歩となった。

孤独な私と孤独な誰かが、ほんの一時電話の線を通してつながる—そのことのためにこの活動を続けてきた。もちろんここで得た「つながり」はそれだけではない。多くの人たちと関わる中で、人間というもののおもしろさ、哀しさ、おろかさ、愛しさetc…を知った。

30年たって、世の中はうつろいゆき、電話のむこうも私も変わった。相変わらず私は孤独ではあるが、もう孤立はしていない。体力気力の衰えと共にセンターへの道は遠くなつたが、わずかなつながりを求めて私はまだ、ここへ来ることをやめられない。

22期・K.S.さん

### 20年を迎えて — 感謝！—

多くの電話のかけ手の方々、資質に欠ける私をお導き頂いている多くの先生方、組織運営に携わっていらっしゃる事務局・委員会・サポートチーム・賛助会員の方々、グループ研修仲間・同期31期・相談員の方々、退勤された皆様、ほんとうにほんとうにありがとうございます。

生甲斐を見失っていた40代。「眠らぬダイヤル」に図書館で出会い、自助を目的に応募したYセンターでは「君にはかけ手を助けようとの強い意志がない」と不合格。阪神淡路大震災の年、関西いのちの電話での再挑戦でも、実習で「もう電話に出るな」と叱られ、それでも必死にしがみついてきました。そして、今後も細々と続けて行きたいです。

切る前に泣きながら「ありがとう！もう少し生きてみます」との言葉を頂く時が稀にあります。少しは人のお役に立っているのでしょうか。

同期K.I. K.K. M.Y.さん、一緒に20周年を迎えたかったよ！ご冥福をお祈り致します。

31期・H.I.さん

### 活動10年を迎えて

いつまでも昨日入った気分が抜けないまま10年を迎えました。認定式の時、私たち42期は17名、10年表彰者29名、20年表彰者8名、30年表彰者3名でした。多くの方が長年活動しておられるに驚きました。また、その後の祝賀パーティでは、「来年はあなたたちが実行委員なのですよ」と予め言われ、楽しむよりもどのように運営されるのかメモを取つたことも昨日のようです。

少ない人数の期ですが、今日まで同期の会や研修会を毎年持ちつつ、仲良く続けてこられているのは嬉しいことです。電話相談活動では、かけ手の話をしっかりと聞くことがいかに難しいか、慣れが生じている今、特に感じます。いつも新鮮な心であります。

また、団体の事業・運営のお手伝いを、各自の賜物を用いつつ行えていることも幸いなことです。これからも健康に留意し、諸活動を続けて参りたいと思っております。

42期・E.I.さん

### こんなこともやりました！ありました！

- ・12月1日 第2回理事会開催
- ・12月5日 西宮市立甲武中学校PTA「人権講演」
- ・12月8日 10カ年事業計画委員会、長尾文雄氏講義
- ・12月12日 大阪市立喜連中学にてKAINO劇団公演
- ・12月16日 長尾文雄氏宅にて朝日新聞社会部記者取材
- ・12月19日 第2回評議員会開催
- ・1月12日 大阪YMCA学院高校 講座「共生社会」講義
- ・1月19日 博愛社地域懇親会に出席
- ・1月23日 近畿・東海ブロック会議（神戸）出席

### 2016年12月～2017年3月の活動の一部をご紹介します。

- ・2月2日 第2回公開セミナー＆ボランティア説明会（難波）開催
- ・2月7日 大阪府自殺対策審議会出席
- ・2月9日 宝塚市ひらい人権文化センター「人権問題講演」
- ・2月10日 10カ年事業計画委員会、齊藤壹氏講義
- ・2月28日 大阪市自殺対策部会会議出席
- ・3月1日 読売テレビ取材
- ・3月8日 評議員会選任・解任委員会開催
- ・3月11日 51期認定式・永年勤続感謝式・祝賀会開催
- ・3月16日 第3回評議員会、及び第3回理事会開催



## 問い合わせることと共感 4

### 「瞬時の峻別とラポール」

電話では、相手の顔の表情やしぐさ、姿勢などの非言語の情報は受け取れません。受話器から聞こえる聴覚による情報だけです。相手の声の高低、スピード、口調、沈黙の様子、相手のかけている場所の気配などを聞き取ろうとすると、意外とたくさん情報が伝わってきます。

聞き手は意識するしないにかかわらず、これらの耳から入ってくる情報を瞬時に処理をして、「いま、この人はこのような気持ちなのかな、このような状況に置かれていて、訴えのポイントは○○ではないだろうか」などと相手の感情や考え方を受け取ろうとしています。

それに連動して、聞き手自身の中に、「この相手は親しみが持てるなあ～」「この相手は私には苦手だなあ～」などと、相手を直感的に峻別してしまいます。この直感的な反応は、誰しもが感じることです。この直感的な峻別を、ダメなこととして否定は

しないでほしいのです。

大切なのは、その峻別を一端保留して、相手の全人格に関心を向けて、電話の向こうにいる相手が自分のことを、どのように見ているのかを聞くこと（推測してみること）です。つまり、相手の目線で、聴き手である自分自身をとらえることです。

相手も電話での「いま、ここ」で、「この聴き手は親しみが持てるなあ～」「この聴き手は私には苦手だなあ～」「上から目線だ」「話してもよさそうだ」などと直感的な峻別をしているのです。

それは私たち聴き手が感じているより敏感に、慎重に、耳から入ってくるこちらの声の高低、スピード、口調、沈黙の様子、ブースの気配などを聞き取って、峻別してくるのです。

これは、電話がつながって、約5分から10分ぐらいの間に、双方の峻別の作業が行われるのではないかと思います。これが、いわゆるラポール（親和関係・信頼関係・安心して話せる関係）を築くプロセスではないでしょうか。

（長尾文雄・元大阪女学院大学／短大講師）

第22回  
チャリティーコンサート

## 関西学院大学グリークラブ

KWANSEI GAKUIN GLEE CLUB

日時 2017年8月25日(金)

開演/19:00 (開場/18:00)

会場 いずみホール

大阪市中央区城見1-4-70 JR大阪城公園駅より徒歩3分

●前売/2,500円 (当日/3,000円)

◆チケットの取り扱い 関西いのちの電話事務局

電話: 06-6308-6868 FAX: 06-6308-6180

E-mail: kaind@age.ac



関西学院大学グリークラブは、日本で最も長い歴史を持つ男性合唱団です。多くのコンクールで受賞するなど、常に日本の合唱界をリードし続けています。

「メンタルハーモニー」をクラブモットーとして代々受け継ぎ、精神的調和を目指す独自の「関学トーン」は、多く人々から愛されています。心洗われるひと時をどうぞお楽しみください。



この広報誌は、平成28年12月に実施されたNHK歳末たすけあい配分金を受けて作成したものです。府民(寄付者)のみなさまに感謝いたします。

編 集 後 記

今号の巻頭記事と公開講座の記事は「いのち」について記述。個々の「いのち」が死によって消滅した後も、他者の「こころ」の中で生き続ける生き方=「死後生」が、「生きる意味」をもたらし、「いのち」を輝かすと記事の中で語られる。

「死にたい」と訴えるかけ手は、自分の「いのち」の意味・輝きを、その時には、まだ手にしていないのであろう。病・孤立・貧困・生育環境等が、手にすることを妨げているのかもしれない。かけ手の訴えに寄り添い、耳を傾け、いつの日か「いのち」の意味を手にすることを願いつつ、相談員は聴き続ける。 (H.S.)

### 電話相談受信状況 (2016年~2017年)

受 信 月	11月	12月	1月	2月
受 信 件 数	1,881件	1,971件	1,859件	1,586件
相談員数(延)	493人	505人	480人	426人

### 社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局: 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72  
TEL 06-6308-6868 FAX 06-6308-6180

発行人: 李清一 編集: 広報委員会

ホームページ <http://www.kaindnew.com>